

第3回 共生社会被災者支援の会
議事録

日 時 2011年4月9日午後6時30分から

場 所 梅田サテライトサロン（会議室）

参加者 柏木宏、阿久澤麻理子（以上、教員）、阪野修、坂口一美、尾崎力、李千秋、新家潤子、後藤陽子、前川武志、中野冬美、石井信夫、半田壺、小川眞智子、岡田高明、岳麗、岩山春夫、島崎眞波（フレンズオブマイクロネシア）、坂田信雄（PTAコラボネット大阪副理事長）

1) 経過報告（阪野）

3月11日の震災発生により親族の方が被災された4期生の坂口さんから阪野さんに相談があり、3月20日に「共生社会被災者支援の会」が発足し、メーリングリストの作成や義援金口座の設置にいたった。3月26日の第2回会合では4月1日から気仙沼へ行く坂口さんの活動を支えるための体制作りに関して協議した。今回は気仙沼から戻った坂口さんの報告を受けて、4月12日から再び気仙沼入りする坂口さんの活動の具体的な方針について協議したい。

2) 募金状況（前川）

現在37万円ほど振り込まれているが、坂口さんの個人的な関係者からの募金も多く、礼状や領収書などの宛先がわからない人もいる。寄付者の氏名と寄付額については、リストとして提出された。

3) 現地の支援状況についての報告（坂口）

現地での活動内容

4月1日、気仙沼市役所に連絡を取り教育委員会と接触し、伊藤課長補佐と面談する。活動の概要書（柏木先生と内容を確認）を提示し、活動への協力をえる。当日は気仙沼高校の教頭先生のご厚意により現地の避難所を案内してもらい、小学校の校長より現状説明を受ける。市内の避難所を回った後、最終的にボランティアセンターの近くにある新月中学校で夜警や避難所の運営に関わるボランティア活動を行ないながら駐在させてもらった。

4月2日の午前中に気仙沼港や鹿折地区の被災地域を回ったが、大規模な火事のために真っ黒となっていたり、家に船が付きささっていたりするような惨状であった。国道は復旧したものの、その他の道路は地形が変わってしまっていて脇まで海が迫っているところもあり、津波による残骸も被災したまま放置されていた。午後から障害者支援を行っているNPO法人ネットワークオレンジの小野寺氏と面談し、高齢者支援を行っている団体の調査と12日以降の活動について繋がりをつける。

4月3日は、坂口さんご自身のご両親や安否のわからないご親族関係の対応に追われる。4月4日は、気仙沼教育委員会にて伊藤氏と懇談し、その後広域防災センター避難所を訪問、4月5日はレンタカーを借りて安置所などを訪問し、4月6日に仙台 一関

花巻空港 伊丹空港というルートで帰阪する。

現地の交通事情について

気仙沼までの交通の便については、飛行機(花巻空港)・バス・車などを利用したが、飛行機内は支援団体や消防などの行政機関の派遣者で満席、バスについては1時間に1本程度、道路については道が凸凹している状態で移動にかなりの時間がかかった。花巻空港からバスで一ノ関へ移動、一ノ関から宮城県工業高校の板橋先生の車で気仙沼まで送ってもらったが、気仙沼まで大船渡線が復旧されていたようである。市内で車が不足しており、レンタカーも調達が困難な状況である。交通費についても今回は現地の学校関係者からのご厚意もあったが、交通費は、航空費片道3万円以上、バス代や高速代、レンタカー代などがかった。ただし、食費は、避難所で食事の提供を受けたので、余りかからなかった。

被災地域の支援状況

気仙沼高校や気仙沼西高校、ケーウェーブ(気仙沼市総合体育館)は、市内でも大規模な避難所となっており、特に気仙沼西高校は警察や消防関係の宿泊所となっていた。仮設住宅は7000必要だが1200ほどしか調達できないのが実状で、ライフラインも元に戻るには年単位の時間がかかる。

現地の支援体制として、気仙沼市社会福祉協議会は「気仙沼市災害ボランティアセンター」を気仙沼市市民健康管理センター「すこやか」を設置していた。しかし、職員自身が被災していることもあり、ボランティアセンターは人員不足となっており、責任体制などもまだ整備されていない様子で、市との連携がうまくいっていないようであった。ボランティアの受付に関しても市内在住者のみとなっており、ボランティアを希望する人はいるものの、泥の掻き出しや被災地の残骸の片づけに追われており、子供や高齢者対策までは手が回らない状況である。高校生もボランティアをしていたが、高齢者からの要求に応えきれないと授業開始に伴い高校はボランティアから撤退しつつある。

市外からの活動は行政からの医療や炊き出しなどを行なう国内外の支援団体が中心で、あとは人形劇やマッサージ、メンタルケアなどがある。大規模な避難所が優先で小規模避難所や在宅の被災者達に支援が行き届いていない状況である。小規模な避難所では自治会による運営がなされているが、外部の人を受け入れないようである。兵庫県などの近畿圏からの応援が来ていたが、支援体制に関して積極的に関与できていないなど、市とボランティアセンターとの連携が不十分な状態であった。行政が中心となって支援の割り振り等を行っているが、自己完結できるひとのみの受け入れに限定されている。

住民への直接的な支援については、行政の支援が届くまで段々畑で菜っ葉を寄せ集めて食事をとったりしていたようであるが、現在は食事などの生活物資は届いている。ただし、住民は新品のものばかりを求め古着や応援メッセージの書かれた物品等は手付かずのままであったりする。避難所の様子は学校の教室にブルーシートの上に布団が置いてあるといった状況で、学校の体育館は女性用の更衣室となっていたり、メンタルケアなどが行なわれていたりしていた。ボランティアセンターがボランティアの受け口として機能していないため物資の振り分けを自主的に行っている住民もいるが、気仙沼市職員の大幅な異動により不安を抱えている地元住民も多い。ボランティアに関しては一時的な支援に対する不安を訴える住民や、ボランティアに対して疑念を抱く住民も

いた。震災当初、酔っ払いなどが入ってきたりして物騒だったため昼間と夜に巡回が行なわれている。高齢者の介護スタッフ不足、避難所で奇声をあげる住民、避難所建物の損壊や学校授業の開始に伴う避難所移転等、長期にわたる避難所生活の中で多くの問題を抱えている。

4) 今後の具体的な作業に関する提起

組織体制（責任と権限を伴った役割分担）について

- a) 阪野さんからの以下のような提案により組織としての方針を決定した。
- 坂口さんの今後を支援するという意味では共生社会研究分野のメンバーを中心として実務を担ってゆく。
 - 分野関係者以外の坂口さんの個人的なネットワークについては ML には登録してもらい情報提供を行ってゆくといった方向でよいのではないか。
- b) 組織としての意思決定を明確にするため役員体制を決定した。
- 代表者・・・柏木先生
事務局長・・・阪野氏
会計・・・前川氏
ML 担当・・・新家氏・後藤氏
- c) ML に登録してもらった人は全員会員とすることを定めた。
- d) 組織体制を整備してゆくにあたり、以下のような提案があった。
- 会員の募集にあたり、坂口さんからの現地報告については分野の在校生・修了生にも流したらどうか。
 - 代表と事務局長と連名で事務局会議を召集し、運営決定に関しては事務局会議に一任する。
- e) 義援金口座に振込みいただいた方々に領収書と礼状を送付することとした。
- f) 会員支援登録証の登録に関して以下のような意見があった。
- 登録証をどこに集めるのか（どのように管理するのか）
 - ニックネームで登録し、個人情報に関わる部分については管理者しかわからないようにし、社会資源だけみえるようにしてはどうか。

活動計画（現地での支援活動の可能性）

- a) 坂口さんから今後の活動に関して以下のような意見がでた。
- 気仙沼市内では住民自身が住居を確保することができない状況で、支援者である私たちのベースとなる場所も確保しにくい状況である。市外であれば可能であるが、そうすると車などの移動する手段が必要となる。
 - 現地でボランティアを機能させるにはボランティアコーディネーターが必要である。
 - 今回の活動の反省点として社会福祉協議会との繋がりを確保すべきだったと思う。
 - 現在、能島氏からのサッカー教室開催、埼玉の知人からの支援物資の運搬の申し出がある。支援物資の運搬申し出については、支援物資の運搬に緊急車両用の登録証を確保したいがなかなか手に入らない。
 - 次回、坂口さんが現地に行った際の活動について協議したい。
- b) これに対し、会合に参加したメンバーから以下のような意見が寄せられた。

- 今回の活動で繋がりをもったネットワークオレンジとは太いパイプを結んで、それを支援してゆくのは必要だと思う。
 - 現在、支援の申し出がある分については、どの程度まで実現可能かを見極めてポイントを決めて支援してゆかないと難しいと思う。
 - 大阪ボランティアの水谷氏からもコラボレーションしたい意向があるようなので、現地に派遣されている梅田氏と合流したほうが良いと思う。
 - 熊吉建設の方のご厚意で宿泊所を借りることが可能(但し、交通手段(車)が必要)とありあえず1回~2回はお世話になって、継続的に支援してもらえるかどうか考える。
 - あれこれいろんな支援のつなぎ役となると坂口さんが全て関わらないといけないので、できるものを決め、どういった支援をしてゆくのかイメージを固めたほうが良いと思う。
 - 今の段階であがっている支援項目に担当(フォローする人)を決めてゆくほうがよいのではないか。
 - 現地に何回か行かないと何ができるのかわからないので、坂口さん以外の方が査察に行って細く長くある現地のニーズをつかみ、坂口さんが現地でどのように関わられるかを考える方がよい。
 - 現地みてもらわないと先細りになると思うので、モチベーションを持続させるには何を支援するのかを絞り、支援できたといったものをあげてゆくほうが良いと思う。
- c) 上記の議論を踏まえ、14日から阪野さんが気仙沼での活動に合流することが決まった。
- d) 次回の活動において調査してほしいこととして参加者から以下のような意見が寄せられた。
- 高校生が行って何か支援ができるか？
 - 在宅の高齢者がどのような状況か？
- e) 次回の会合を4月27日(水)6時30分から開催することとした。

文責：後藤陽子